

KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

日本語上級コースにおける「自分らしい話し方」導入の試み

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 関西外国語大学留学生別科 公開日: 2024-04-12 キーワード (Ja): 役割語, キャラ, 上級総合日本語クラス, 教材開発 キーワード (En): 作成者: 福池, 秋水, 倉沢, 郁子 メールアドレス: 所属: 関西外国語大学, 関西外国語大学
URL	https://kansaigaidai.repo.nii.ac.jp/records/2000198

日本語上級コースにおける「自分らしい話し方」導入の試み

福池 秋水

倉沢 郁子

要旨

本稿は、日本語上級コースにおいて「自分らしい話し方」というトピックの中で「キャラことば」の概念を導入する試みについて実践報告を行う。コース全体は、読解を増やすこと、徐々に抽象的な話題に移行すること、「社会的存在」としての活動を取り入れるということを基本的な方針とし、タスクベースを基本として 5 つのユニットから構成されていた。教材作成にあたっては、コースの方針に沿いつつ、イラストの活用、学習者の既有知識を活かすこと、学習者が自律的に学んでいけるように支援することを念頭においた。実践後、学習者アンケートと授業担当教師の所感から振り返りを行ったところ、今回の実践を通し、これまでの経験から得られた知識を整理し、今後の会話で活用する自信につながっている学生もいたことが確認できた。「キャラことば」の概念を導入する最初のステップであると同時に、コースの方針にも沿った教材を作成することができたと考えている。

【キーワード】 役割語、キャラ、上級総合日本語クラス、教材開発

1. 研究の背景

1.1 自分らしい話し方と「キャラことば」

会話教育では、文法や語彙が正しい日本語の指導以上に、多様な日本語のバリエーションを使い分け、その場にふさわしい話し方や自分に合った話し方を選択できるように支援することが重要となる場合がある。

日本語のバリエーションの中には、丁寧体と常体のように場面や人間関係によって使い分けるべきとされる「スタイル」のほか、発話者の性格やその場面・状況での

人間関係・役割を表す細かい表現の違いがある。たとえば、同じ常体でも「おれは食わねえぜ」「あたしは食べないわ」「ぼく、食べないよ」では、想起される話し手像が異なる。このような特定の話し手像を想起される言葉づかいを、金水（2003, 2014）は「役割語」と呼んでいる。

このような言葉づかいは、話者に固定されて結びついているとは限らない。福池（2023）では、漫画作品の中から、相手によって話し方が変化する例や、同じ相手でも関係が変化することによって話し方が変化する例を示した。これらの例では、話し手の性格や人格が変わったというより、話し方や表情なども含めた「キャラ」が変化していると捉えることができる。

このようなケースについて、定延（2018, 2020）は、「スタイル」、「人格」、「キャラ」はそれぞれ別のものであるとしている。すなわち、人格は人間の一部であり、基本的に変わらないが、上司には丁寧体で、部下には常体で話すなどのスタイルの変化は行われる。一方、キャラはスタイルと人格の間にあり、人格に比べると切り替わりが受け入れられやすいが、スタイルと比べると、変えることにためらいが生じるものであるという。

中村（2021）は、人はさまざまな表現の中からその場にじっくりくることがを「選択」することによって、その時々に応じてさまざまなアイデンティティを表現していると述べている。キャラという語は用いていないが、近い概念と考えられる。

このように、日本語話者は、自分のその場での自分自身のキャラによって、意識的、または無意識的に言葉づかいを切り替えていると考えられる。日本語学習者がよりよい自己表現をするためには、その場でのキャラに合う話し方を知り、使い分ける必要がある。

福池（2022）では、先行研究や日本語教材を概観し、「キャラ」と結びつく言葉づかいを「キャラことば」と呼んだ。役割語とはほぼ同様の言葉づかいを指すが、例えば相手が誰であっても丁寧体を崩さないケースのような、表現自体には特定のキャラとの結びつきはないが、状況からはキャラと結びつけられて考えられるようなものも含む考え方である。

日本語教育の教材の中でも、このような言葉づかいを積極的に取り上げているものがある。例えば、国際交流基金が開発したウェブサイト「アニメ・マンガの日本語」では 8 種類のキャラとそれぞれに結びつく特徴的な役割語が紹介されている。この

キャラの中には「男の子」「女の子」のような一般的な人物設定もある一方、「侍」や「忍者」のような現代社会には存在しない人物や、「お嬢様」「執事」「老人」のように実際の言葉づかいとは異なる可能性があるような人物も含まれている。サイト名の通り、アニメや漫画を楽しむことに主眼を置いた教材といえる。

漫画は使用していないが、イラストを使い、「キャラ」を前面に出した教材に、『キャラで学ぶ 友だち日本語』(酒井他 2019)がある。この教材には「ごく一般的な『友だちことば』」を話す男女の学生と、それよりも個性の目立つ話し方をする、「ギャル子」「キング君」「ヤマダ先輩」というキャラを持つ人物が登場し、同じ場面でも異なる言語表現が紹介されている。

1.2 「キャラことば」の概念を伝えるための教材とは

前述のように、個別のキャラことばを伝える教材はすでに存在しているが、ことばそのものを教授することには限界がある。キャラことばは人称詞、文末表現、語彙など多岐にわたり、また、「特徴がない」ことも文脈によっては「まじめキャラ」などのキャラことばになり得る。同じことばが文脈や背景によって違うキャラを表現することがある点も、教材を通じて明示的に教えることを難しくする一因である。

したがって、日本語教育にキャラことばを取り入れる際には、個別の言葉づかいを例示するほか、学習者が教室外で接する話し言葉から自律的に学習を進められるよう支援する必要がある。日本語話者との会話や、アニメや漫画などのメディアを通じ、文脈の中で発せられる話し言葉のどこに話し手のキャラが表現されているのかを見る目を養うことがその一つの方法である。そのためには、イラストや漫画、アニメなどの視聴覚教材を使用しながら、キャラが表れやすい箇所や代表的なキャラことばの例についての情報を示し、意識付けを行うことで、学習者がその後もそこに意識が向けられるような教材や授業実践が必要であると考えている。

1.3 教材作成と実践

以上のような考えを元に、筆者らは、交換留学生を対象とした上級日本語コースの中の1ユニットにおいて、「自分らしい話し方」をトピックにした教材を作成し、それをを用いた実践を行った。このトピックを扱う上で核となる方針や読解教材

の選定は話し合いを重ねて協働で行い、教材作成は主に福池、授業は倉沢が行った。

本稿では、教材作成の意図や構成、授業実践の方針について報告し、実践の振り返りとして作成した教材を使用し、上級の日本語コースにおいて「自分らしい話し方」の概念を導入した実践について報告する。そして、事後に行ったアンケートの結果を基に、学習者のキャラことばへの考え方や教材の改善点について振り返る。

2. 実践の概要

2.1 コースの概要

本教材が使用されたコースは、関西外国語大学（以下「本学」）の「日本語 7」である。2023 年秋学期からの中上級レベル（日本語 5～8）におけるシラバス改編にともない、新しい教材を開発することになった。

日本語 7 は上級前半のレベルで、JLPT の N2 から N1、CEFR の B2.1 のレベルの熟達度を目指している。クラスは週に 3 回、1 コマ 90 分で 15 週間（合計 45 コマ）のコースである。テーマを各ユニットで用意し、タスクベースで 4 技能にアプローチした。具体的な教室活動としては、読解、発表、スピーチ、ディスカッションなどである。各ユニットにかけた時間は 6 コマである。また、教材を使った学習と並行して、地域の魅力を発信する地域連携プロジェクトも行った。

2.2 コースの狙い

日本語 7 の教材は日本語 8 への準備段階として考え、カリキュラムデザインを行った。ユニットは 1 から 5 までを用意し、読み物の長さは後半になるにつれて長くなっている。テーマは身近に感じられるものから、抽象的なテーマや社会問題へと移行していった。

また、もうひとつのコースの狙いとして、文化庁が 2021 年に発表した「日本語教育の参照枠」で示されている、日本語学習者を「新たに学んだ言語を用いて社会に参加し、より良い人生を歩もうとする社会的存在」とする教育観に基づき、学習者が社会やコミュニティの一員として存在するということを考えるきっかけとなる授業をと考えていたことがある。地域連携プロジェクトは、言語を学ぶことはもちろん、地域とのつながりを感じつつ、社会の一員として自分らしさを発揮できるような機会

を組み込んだ授業をと考えて実践した。本教材は、そのプロジェクトとも関連しており、学習者が地域住民とやりとりをする中でどのような自己表現をすればいいのか、ひいては、相互理解、信頼関係を築くための日本語でのコミュニケーションとはという視点から日本語を考えることもユニットの目的とした。

2.3 本実践で作成した教材について

上記のようなコースにおいて、筆者らは、自分らしい話し方を支援するトピックを学期初めの課に取り入れることとし、「UNIT 1：自分のこと、何と呼ぶ？」として、人称詞を扱った読み物とキャラことばの考え方の導入を組み合わせた教材を作成し、実践を行った。本稿ではこの実践について報告する。

本実践で扱うトピックを人称詞に絞った理由は、情報量を最小限にして学習者の負担を軽減したいと考えたことと、キャラことばを紹介するうえで、学習者がすでに用いていて自覚しやすい表現である人称詞が適切であると考えたためである。また、コースの最初のユニットとして自分のアイデンティティについて考えるというトピックがふさわしいこと、会話中心の学びから抽象的な文章を読むことに慣れるというコース全体の方針に照らしても、人称詞という既に経験のある話題に絞ることで読解の負担を減らす点で適した話題であると判断した。

教材の構成は、コースの方針に従い、「プレタスク」→「メインタスク」→「ポストタスク」とした。

教材の細部を作成する際に心がけたことは、白紙の学習者に知識を提示するのではなく、学習者の既存の知識を引き出し、言語化したり他者と共有したりしながら新しい概念と結びつけて理解を図るようにすることである。そこで、プレタスクでは、自分がすでに持っている知識や経験を活かすべく、「日本語で話すときに自分のことをどう呼ぶか」を考えさせたり、さまざまな人物のイラストとその人物の話し方をマッチングさせたりする活動を取り入れた。イラストは、素材サイト「イラスト AC」のものを使用した⁽¹⁾。

メインタスクでは、生教材として、中村（2021）から、人称詞について取り上げた1000字程度の文章を掲載した。この文章を選んだ理由は、文章の難度が適切と思われることと、学習者にとって既知の情報（人称詞の使い分け）に加え、新たな観点からの知見（人称詞で表せるアイデンティティにも限りがあり、それを人称詞以外の話

し方で補うことができること) があることである。

読解タスクの後に「メモ」として「役割語」についての簡潔な説明文を入れた。「キャラ」ではなく「役割語」を取り上げたのは、より一般的に知られている概念や用語を用いることで、学習者の負担を軽減し、また、実際のコミュニケーションでも取り入れることができると考えたためである。本教材の全体を通して「キャラ」や「キャラことば」という用語ではなく「自分らしい話し方」のような言い回しを用いるのも同じ理由による。

メインタスクの読解と役割語の解説のまとめとして、漫画などの作品から「自分が真似したい」と思う登場人物を見つけてくる宿題を課した。

ポストタスクとしては、「自分の母語にも、このユニットで習ったことと同じような人称詞や「役割語」などの特徴があるか。トピックを一つ選んで、8分程度で発表する」という発表活動を用意した。

教材には、授業実施者が単語と文型のリストを付した。単語と文型の選定にあたっては、教材の中に出てくるものを中心に、コースの到達目標や他のユニットとのバランスも考慮した。

3. 実践の振り返り

3.1 学生のアンケートから

実践に対する学生の評価を確認するため、ユニット終了直後にアンケート調査を行い、履修者 22 名のうち、15 名から回答を得た。アンケートには google form を使用し、日本語と英語を併記した。

3.1.1 「自分らしい話し方」に関する学びについて

アンケートの前半では、授業を通して「自分らしい話し方」についてどのような学びがあったかを問うた。

「あなたは、この授業の前に、人による一人称の違いや役割語、『自分らしい話し方』の考え方を知っていましたか。」という質問に対しては、「知っていて、使っていた」と「知っていたが、自分では使っていなかった」を合わせると、ほとんどの学生が事前にこれらの概念について知っていたと答えている(図 1)。「知っていたが、自分では使っていなかった」と答えた 3 名の学生について、その理由を複数回答で尋ねたところ、「いつ使ったらいいかわからなかったから」を 3 名全員が選択し、うち

2名は「慣れていなかったから」も選択した。

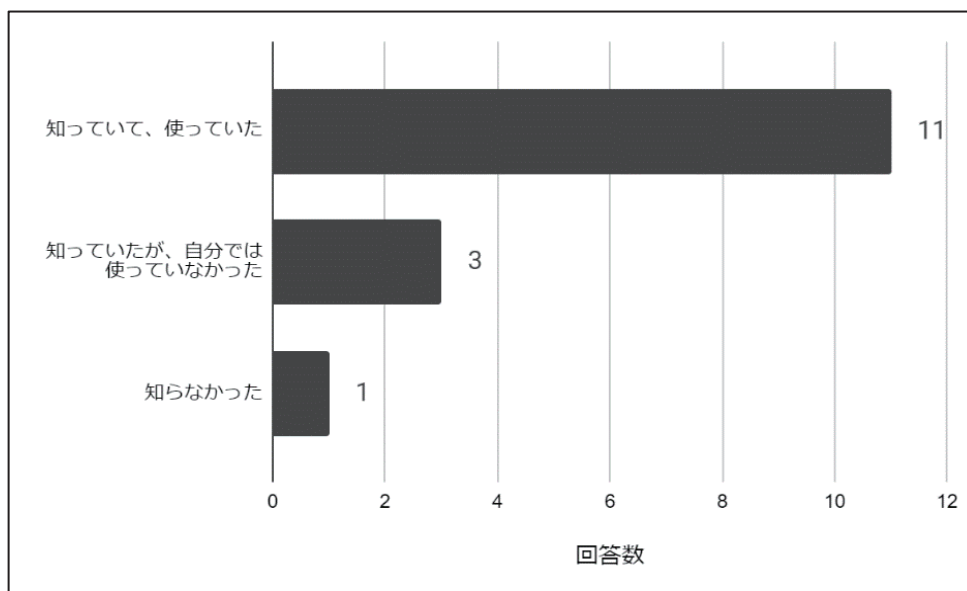


図1 授業参加前の知識

次に「この授業を通して、役割語や『自分らしい話し方』について新しい知識を得ることができたと思いますか。」と尋ねた（図2）。「たくさん得ることができた」と「少し得ることができた」を合わせると、13名が「新しい知識が得られた」と回答している。

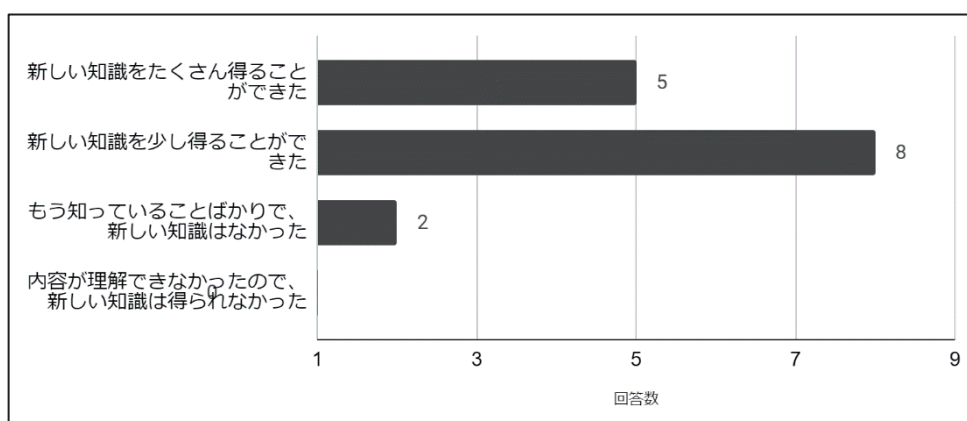


図2 この授業で新しい知識を得ることができたか

得られた知識についての自由回答の例は以下の通りである。

- ① I was able to become more comfortable in my use and hearing of the various ways to refer to oneself. (筆者訳：自分自身を表すさまざまな言葉の使い方に慣れ、また聞きとりやすくなった。)
- ② I learnt a lot of new words and concept to talk about what i already had experience with and how i had heard pronouns and sentence endings being used. This makes for interesting conversations with local students and other japanese people. (筆者訳：すでに経験したり使われているのを聞いたりしたことがある代名詞や文末表現について話すための新しい単語や概念をたくさん習った。日本人学生や他の日本人と話す時、会話が楽しくなるだろう。)
- ③ (前略) 今日本に住んでいるの僕はどっちの人称しを使ったらちょっと迷っている。僕の日本人の友達はいつも”俺”を使うけど彼らは乱暴じゃなくて親切です。そしてぼくは乱暴と弱いじゃないから何を使ったら分からない。役割語は難しいなと思ういます。
- ④ 言葉も性別があると新鮮と感じたときにも、この考え方もちょっと古いと思います。

①②のように、今回の授業を通じた学びを今後の実際の会話に活かすことができそうだという回答のほか、③④のように新たな疑問や批判的な態度を表す回答も見られた。

今回の実践で扱った読み物では、主に男性が使うとされる人称詞「俺」と「僕」について、乱暴なイメージの「俺」と気弱なイメージの「僕」のどちらにも当てはまらないと感じる場合には人称詞が選べなくなるという問題が指摘されていた。③の感想はそれを反映し、自分の個人的な体験に当てはめたものと考えられる。また④について、筆者らは「言葉にジェンダーによる区別があることは新鮮ではあるが、その考え方自体が古いとも感じた」の意と解釈した。③や④の感想には、授業で学んだことに対し自分なりに疑問を呈する姿勢が見られ、一人ひとりに「キャラ」に関わる言葉づかいについて自律的に学ぶ能力を身につけてほしいという実践の目的の一部が実現していると考えている。

図 3 は「今後、以前よりも自分に合う話し方で話すことができそうだと思いますか。」、図 4 は「あなたは、日本語を話すとき、自分に合った話し方をしたいと思いますか。」という質問に対する回答を表す。図 3 を見ると、全員の学生が「今後、自分らしく話すことができそう」だと回答している。ただし、この設問に添えた英訳が「Do you think you will be able to speak in a manner that suits you in the future?」であり、英語には「今よりも」というニュアンスが希薄であるため、授業の効果といえるかは

不明である。

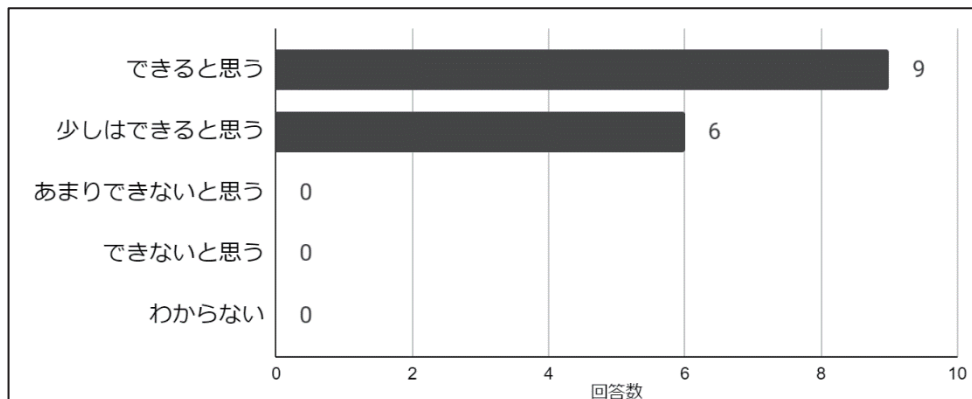


図3 今後、自分らしく話すことができそうか

図4でも、すべての回答者が自分に合った話し方を多少なりともしたいと考えていることがわかる。情報としては自分の言いたいことがおおよそ伝えられるようになっている中上級の学習者であるが、より「自分らしく」話したいという欲求があることがわかる。

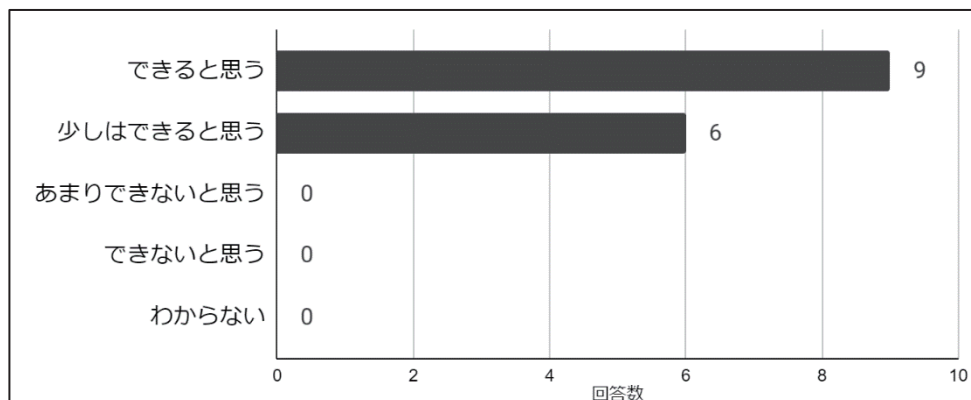


図4 日本語を話すとき、自分に合った話し方をしたいと思うか

3.1.2 教材と活動に対する評価・感想

以下に、教材や授業内活動に対する評価や感想についての質問群への回答を示す。

図5は「教材はわかりやすかったですか。」、図6は「教材の難しさはどうでしたか。」という質問への回答を示している。「わかりやすさ」については「とてもわかりやすかった」が最も多いのに対して、「難しさ」について聞くと、「少し難しかった」

が半数近くを占める。わかりやすさと難易度が学習者にとっては別の指標であること、今回の教材は多くの学生にとって、伝えたいことはわかりやすいが内容はやや難しいと感じさせる教材であったことが窺える。

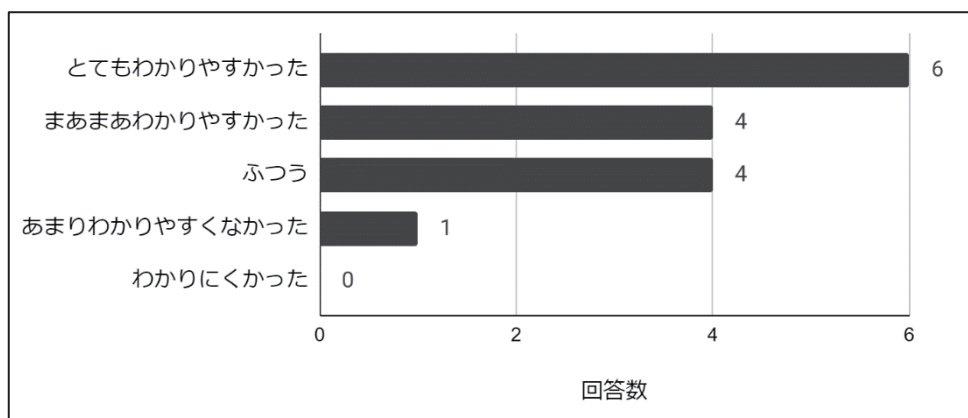


図5 教材のわかりやすさ

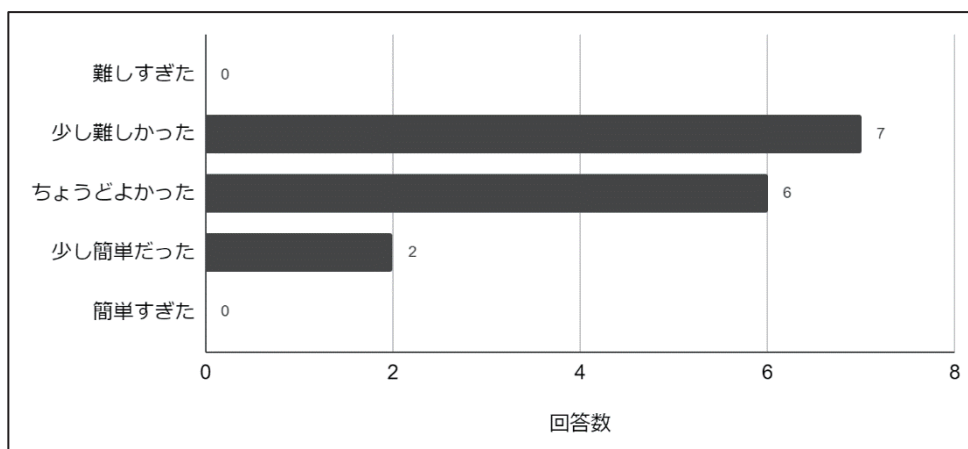


図6 教材の難しさ

図7は、「「メインタスク」の読み物の新しい語彙の量はどうか。」という質問への回答を示したものである。読解の本文の語彙の量については「ちょうどいい」または「少し多い」と感じた学生が大半であった。先に述べたような「教材がやや難しい」という学生の感想は、メインタスクの読解文の影響があることが考えられる。読解はやや難しめであるが内容としては身近でわかりやすいものという目標のもとに選定したことを考えると、おおむね狙い通りといえるだろう。

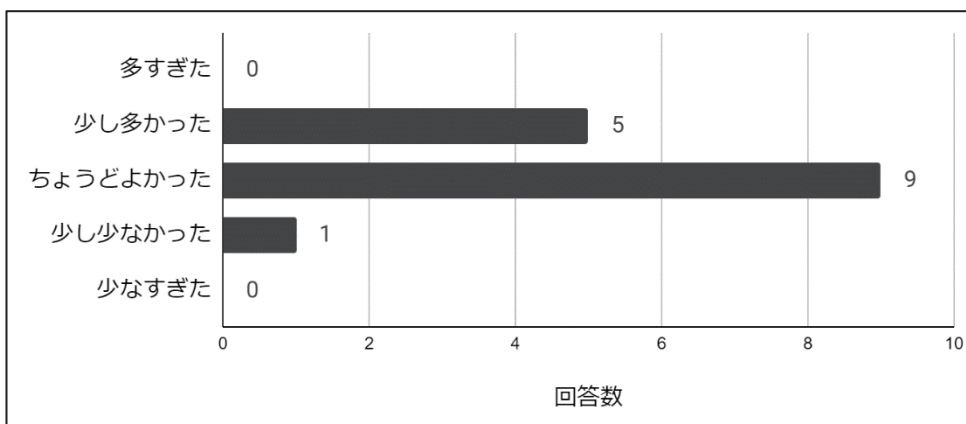


図7 読み物の新出語彙の量

次に、自分らしい話し方の部分についての感想を尋ねる質問として、「「自分を表す表現」の例の数はどうでしたか。」(図8)と「教材の中にイラストがあることは役に立ちましたか。」(図9)の2つの点を尋ねた。

「自分を表す表現」の量については、15名中12名が「ちょうどよかった」と答えしており、おおむね適切と捉えられていたことがわかる。また、イラストについては、「どちらでもない」が15名中4名いたものの、「役に立っていなかった」という回答はなく、多くの学生にとってはこの教材にイラストが添えられていたことは理解を助けるものとして受け止められていたといえる。

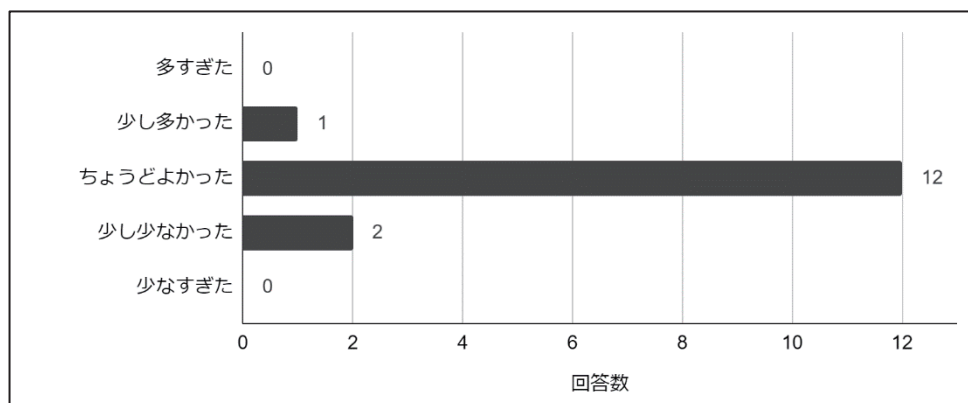


図8 「自分を表す表現」の量

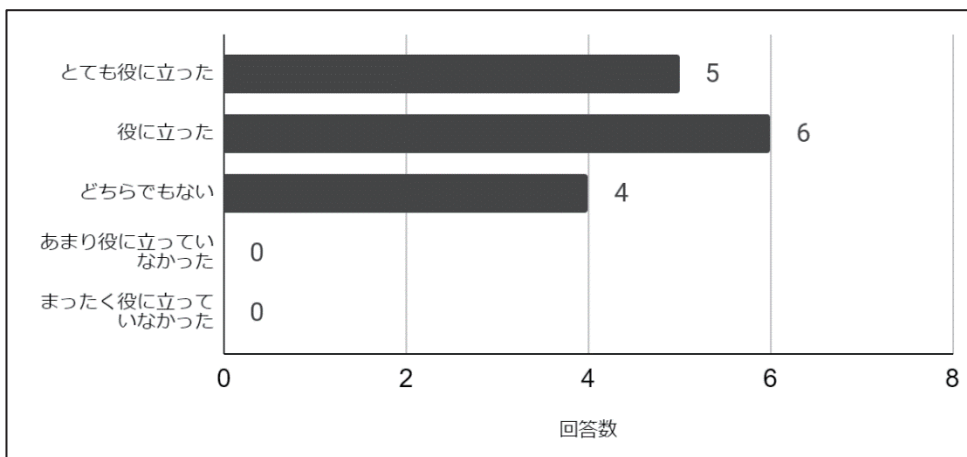


図9 教材にイラストがあることは役に立ったか

最後に、ポストタスクの発表活動について、「ポスト・タスクの活動（発表の活動）はどうでしたか。」と複数回答で感想を聞いた結果を図10に示す。「役に立った」「緊張した」が15名中7名で同数、その他「難しかった」「楽しかった」もそれぞれ4名、3名が選択している。このコースで初めての発表活動だったこともあり、受け止められ方は人それぞれであったようである。

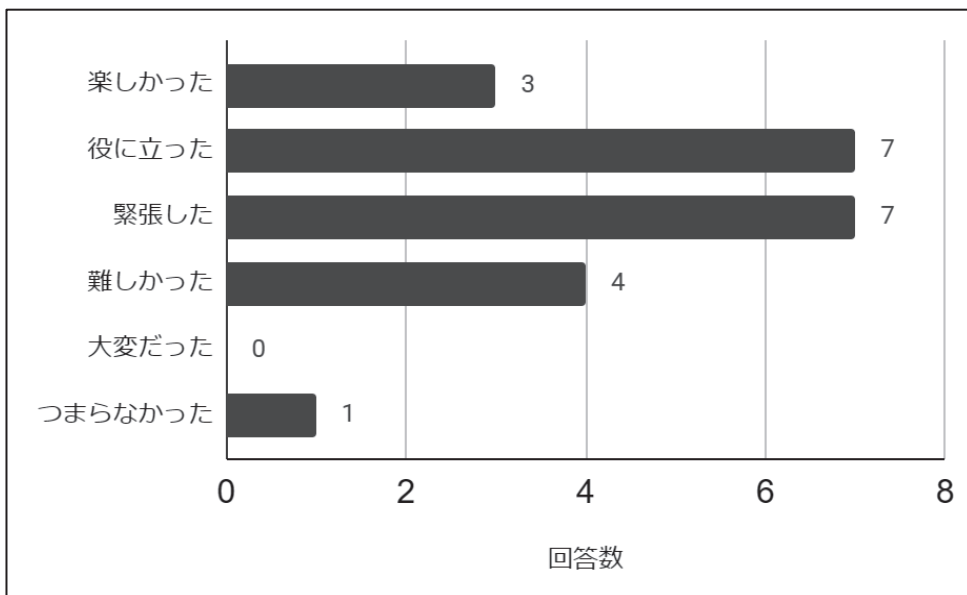


図10 発表の活動の感想（複数回答）

3.2 授業担当者の所感

「自分らしい話し方」を学ぶこの教材は、該当コースの最初のユニットであり、学生が自分に引きつけて話すことができるいいトピックだったのではないかと考える。本学のこの一つ前のレベル（日本語 6）で勉強してきた学生を例にとって考えてみると、2、3 ヶ月前まで会話中心で勉強してきた学生が触れる教材として、上記のアンケートの結果にもでてるように「少し難しかった」と思う内容だったかもしれない。プレタスクでテーマについての背景知識を共有するなどしてメインタスクの準備をしても、書籍や新聞記事の内容をもとに授業を進めていくことに不安を感じていることが、コメントや授業前後の会話からわかった。中には漢字にひどく苦手意識を持っている学生や、会話や漫画などの短い文章を読むことは慣れていても、長めのテキストを読んだり、発表のスクリプトを書くということに慣れていないという学生もいた。

このような学習者不安が見られる一方で、学習者の日本語に関する知識や経験則から、人称詞の使い方はすでに多くが知っており、内容理解も早く、「人称詞」、「文末詞」などの専門的な言葉でもすぐに使いこなしていた。ポストタスクまでユニットが進んだ時には、このトピックについてすでにある程度話し慣れてきていたため、「こんな時、自分をどう呼ぶ？」という箇所も、すぐに終わってしまった。

ポストタスクのもう一つの課題の発表では、教材で用意された内容から修正し、学習者が知っている言語にはどのようなおもしろい側面があるかを、6 分程度で発表するという指示を出した。学期開始時の学習者のレディネス、およびニーズ調査アンケートから、コース履修者の言語背景が非常に多様であることがわかり、日本語と英語にとどまらない様々な言語のおもしろさをお互いに共有してもらいたいと考えた。また 6 分としたのは、履修者数が予想よりも多く、時間的な制限があったこともあるが、コース全体で 4 回の発表を予定していたため、まず最初は少し短く 6 分から始め、徐々に長くしていくこと、そして、理論的に相手を説得することが発表の目的ではなく、例を用いながら自分がおもしろいと思うことを説明し、伝えることが目的の発表であったため、8 分では長すぎるのではないかと考えた。

学習者が発表の中で扱った言語は学習者の母語か日本語で、方言、役割語、言語の歴史、人称詞などが主なトピックであった。

本実践を行う中で、上級クラスの学習者の日本語能力の個体間差という意味で、ク

ラス運営や指導の難しさも今回改めて感じたが、役割語やキャラの話から、好きなアニメや漫画のキャラクター、ドラマや映画の話などにもなり、学生同士が打ち解けるいいテーマであった。

3.3 考察

アンケート調査結果からは、学習者がすでに、日本語における「役割語」や「人それぞれに合った話し方」の存在に気づいていたこと、漠然とした経験知が言語化された知識に変わっていた学生もいたこと、本実践で使用した教材に対して大きな違和感を持つ学生はいなかったことがわかった。

アンケート内の「この授業で得られた学び」の自由回答に散見された「今後の会話に生かせそうだ」という学生の声は、自分たちがすでに知っている日本語の表現について改めて整理し、気づきが得られたことを示唆している。

教材の難度については、やや難しめと捉えた学生が多かったようである。「教材のわかりやすさはどうでしたか」という質問に対して、「少し難しかった」という回答が約半数（47%）あった。授業担当者の観察によれば、提出された課題の質や、教室内でのやりとりをもとに、内容がわかっていない様子の学習者は見受けられなかったが、本コースの最初のユニットであり、前述したように、上級日本語を履修していることに対して、自信が持てていない様子もあった。このことが「少し難しかった」に繋がっているのではないだろうか。

教材が「少し難しかった」と答えた学習者の中で、新しい語彙も「少し多かった」と答えている学生もいたが、コースを通して見てきたこの学生の日本語運用能力をもとに考えると、テキストの隅々まできちんと理解したいと思っていたのではないかと考える。

本実践はコースの最初の課で行ったものであり、学生にとっては、読解の活動や言語で言語を説明するメタ言語的な発表活動にすぐには慣れず戸惑いがあったことも考えられる。しかし、コース全体の到達度や学生の日本語運用力レベルに照らし、若干難しいと感じられる程度のテキストの読解から始めることは適切な選択だったと考えている。

4. まとめ

以上、本稿では、本学の日本語上級クラスにおける初めの課である「自分らしい話し方」というトピックのユニットの中で「キャラことば」の概念を導入する試みについて実践報告を行った。学習者はすでに、話し手や場面による日本語のバリエーションについて経験的に知っていることも多かったようだが、実践を通し、知識を整理し、今後の会話で活用できる自信につながっている学生もいたことが確認できた。今回の実践を行ったコースの方針（読解を増やす、徐々に抽象的な話題に移行する、『社会的存在』として社会やコミュニティの一員として存在するということを考えるきっかけとなる授業を展開する）にも沿った教材を作成することができたと考えている。

今後の課題として、このような実践が実際の表現の使用に対して効果があったかどうかを確認する必要がある。今回のアンケートでも、「今後このような表現を使えると思うか」という趣旨の質問があったが、英訳の言い回しにずれがあり、学習者が回答の際に「以前と比べて」というニュアンスをどこまで理解していたか曖昧であった。

教材に関する改善点は、ポストタスクの「どの場面で自分をどう呼ぶか」の活動をもう少しディスカッションにつなげる形に変えることが考えられる。教材作成段階では、個々の学習者がもう少し考えたり話し合ったりすることにつながることを期待していたが、人称詞についての学習者の理解が想定以上に早かったこともあり、プレタスクとあまり変わらない活動内容になったことが反省点である。今回の調査結果を活かし、よりよい実践につながるよう教材をブラッシュアップしていきたい。

注

- (1) 「イラスト AC」 <https://www.ac-illust.com/>

参考文献

金水敏（2003）『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店

金水敏（2014）『〈役割語〉小辞典』研究社

定延利之（2018）「日本語社会における「キャラ」」定延利之（編）『「キャラ」概念の広がりや深まりに向けて』三省堂, 120-133.

定延利之（2020）『コミュニケーションと言語におけるキャラ』三省堂

中村桃子（2021）『「自分らしさ」と日本語』筑摩書房
福池秋水（2022）『「キャラ」と日本語教育』『関西外国語大学留学生別科 日本語教育論集』第 31 号, 103-116.
福池秋水（2023）『漫画登場人物の「キャラ」と話し言葉』第 32 号, 1-19.
日本語教育の参照枠（報告）
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/93476801_01.pdf（2023 年 12 月 19 日）
文化審議会国語分科会（2021）『日本語教育の参照枠 報告』
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/93476801_01.pdf（2023 年 12 月 19 日）

参考資料

酒井彩, 高木祐輔, 川鍋智子, 斉藤信浩（2019）『キャラで学ぶ 友だち日本語』くろしお出版
国際交流基金「アニメ・マンガの日本語」<https://anime-manga.jp/>（2024 年 1 月 20 日）

謝辞

本研究は JSPS 科研費 21K13046 の助成を受けたものです。

(afukuike@kansai.ac.jp)

(kurasawa@kansai.ac.jp)

。

資料① 使用した教材（一部）

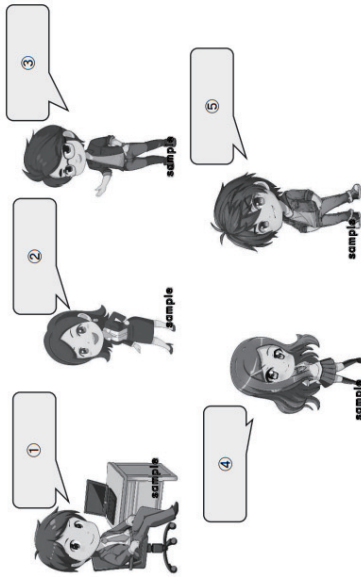
UNIT 1 自分のこと、何と呼ぶ？

プレ・タスク

1. 日本語で話すとき、あなたは自分のことをどのように言いますか。二つ以上の言い方を使う場合、どのように使い分けていますか。

2. 1) 次の①～⑤の人が、後輩に話しています。どのような言葉づかいをずると思いますか。下の a～e から選んでください。

2) どうしてその言葉を使うと思ったのか、ほかの人と話しながら考えてみましょう。



- わからないことがあったら、いつでも私に聞いてください。
- わからないことがあったら、いつでも私に聞いてね。
- わからないことがあったら、いつでも度に聞いて。

3) 「私」という意味の言葉の中で、アニメや漫画では使われていても、実際に聞いたことがない言葉はありますか。その言葉はどんな人が使っていますか。

2

メイン・タスク

次の文章を読んで、あとの質問に答えましょう。

「あたし・うち・ぼく・おれ」どれを使う？

呼称の代表は「人称詞」だ。日本語にはたくさんの人称詞（人を指すことば）があり、身近なものには、「自称詞」と「他称詞」がある。自称詞とは、「わたし」や「ぼく」などの自分を指すことばで、他称詞とは、「あなた」や「きみ」など相手の人を指すことばだ。日本人にとって人稱詞がたくさんあることは、当たり前かもしれないが、たとえば、英語の自称詞は「I」というひとつしかない。だから、日本語にさまざまな自称詞があることは、日本語の豊かさのひとつとみなされてきた。

しかし、数が多いから、かえって制限されてしまう面もある。

第一に、人称詞は自由に選べるわけではない。たくさんある人称詞は、それぞれ微妙な違いを表現している。中でももっとも明確な違いは、話し手の性別だろう。自称詞の場合で言えば、「わたし」と「あたし」は女性用、「ぼく」と「おれ」は男性用の代表例だ。男性も、フォーマルな場では「わたし」を使うことができるが、女性が「ぼく」や「おれ」を使ったり、男性が「あたし」を使うと、ルールから逸脱しているような印象になる。

あえて逸脱した自称詞を使うことは、新しいアイデンティティを創造する側面を持っている。小中学生の女子が「ぼく」や「おれ」、「うち」を使う例については、後で詳しく見ていく。（中略）

第二に、人称詞はたくさんあるが、今ある人称詞が表しているアイデンティティしか表現できないという制限がある。たとえば、「ぼく」と「おれ」にはいくつもの違いがあるが、そのひとつは、のび太の「ぼく」とジャイアンの「おれ」の違いだろう。「ぼく」と「おれ」は、それぞれ、〈弱気な男子〉と〈ガキ大将〉のアイデンティティと結び付いている。だから、ある男子が、自分は「のび太」でも「ジャイアン」でもないと思っても、その中間の自称詞はない。当然ながら、どれだけ数が増えても、これらのアイデンティティ表現にもしくりくる自称詞を用意するには足りないのだ。

だから、私たちは自称詞などの単語だけでなく、他のことばも含んだ「〇〇ことば」で微妙なアイデンティティの違いを表現する。たとえば、同じ「ぼく」を使っても、「ぼくは、違うと思うぞ」と「ぞ」という文末詞を使えば、強く主張している印象になるが、「ぼくは、違うと思います」と「ます」を使えば、いいないなアイデンティティになる。もちろん、これらの「ぼく～ぞ」や「ぼく～ます」がどのような場面でだれと話している時に使われるかで、その印象も異なってくる。

中村航子（2021）『「自分らしさ」と日本語』筑摩書房より

3

内容理解

1. 次の言葉の意味が分かりますか。説明してください。(できれば日本語で)

① 自称詞

② 他称詞

2. 9行目「人物詞は自由に選べるわけではない」とありますが、自称詞の使い分けについて、もっとも明確な違いはなんだと言えますか。

3. 17行目「今ある人物詞が表しているアイデンティティしか表現できないという制限がある。」とありますが、どのような意味ですか。([のび太]と「ジャイアン」がわからない人は、検索してみてください)

4. 微妙なアイデンティティの違いを表現するために、日本語ではどんなことができると言っていますか。

メモ:「役割語」と、自分らしい話し方

アニメや漫画で、おじいさんが「わしは〜じゃよ」と言ったり、ちょっと乱暴な男の人が「オレは〜だぜ!」と言ったり、上品な女の人が「あら、それは困るわ」と言ったりするのを見ることがあります。アニメや漫画の日本語に慣れ親しんでいる人なら、このような言葉を文字で見ただけでも、「あ、これはおじいさんが話している」「あ、これは女性が話している」とわかります。このように、あるグループの人のイメージと結びつくことを「役割語」と言います。

役割語の中には、現実の会話でも使われるものと、実際には使われないものがあるのに注意が必要です。「わしは〜じゃよ」というおじいさんは実際にはあまりいません。また、「あら、それは困るわ」というような言葉を使う女性も少なくなりました。

実際にどのような言葉が使われているかは、日本語ネイティブの人の話し方を観察してみましょう。うまく使くと、自分らしい話し方に近づくことができます。

「メイン・タスク」の文章にもあるように、自分のアイデンティティを表現するために、役割語を意識してみませんか。

例



もう12時だぜ。
腹へっただろ。
オレ今からメシ食うけど、
いっしょに行かぬえ?



もう12時よ。
おなかすいたでしよう。
わたし、今からご飯食べるんだけど、
いっしょに行かない?



もう12時だよ。
おなかすいたんじゃない?
僕も今からご飯行くんだけど
いっしょに行く?



もう12時だよ。
おなかすいたっしょ。
あたし、今からご飯食べるんだけど、
いっしょに行かない?

宿題

1. 自分の好きな漫画やアニメ*を選んで、「この人のように話したい」と思える人を探してください。次の授業で、その人の話し方の特徴を説明できるように準備しましょう。

*または、国際交流基金「アニメ・マンガの日本語」サイトの漫画でもいいです。

<https://anime-manga.jp/en/>

2. 日本人の友達に、「自分のことを何と呼ぶか」聞いてください。場面による違いも聞いてみましょう。

ポスト・タスク

1. 次の①～④の場で、あなたは、自分のことをどう呼びたいと思っていますか。

- ① 就職の面接を受けているとき _____
- ② 日本語の先生と話しているとき _____
- ③ 新しいクラスで自己紹介をするとき _____
- ④ 仲のいい友達と話しているとき _____

2. 1の言葉を選んだ理由について、簡単にまとめてグループで発表してください。

3. 前回の宿題について、「話し方を真似したい人」の話し方の特徴と、どうしてもそのような話し方をしたいのか、グループの人に紹介してください。

発表

みなさんの母語にも、このユニットで習った人称詞や「役割語」などの特徴がありますか。トピックを一つ選んで、8分程度で発表してみましょう。

資料② アンケート質問項目

*本文で引用した項目のみを示す。

*アンケート実施時、一部の設問で英文と和文の順序が逆になっていたものを修正した。

質問：Were you familiar with the differences in first-person pronouns, "role language" (役割語), and the concept of "speaking in your own way" before taking this class?あなたは、この授業の前に、人による一人称の違いや役割語、「自分らしい話し方」の考え方を知っていましたか。

選択肢

- I knew and used them. 知っていて、使っていた
- I knew but did not use them myself. 知っていたが、自分では使っていなかった
- I did not know. 知らなかった

質問：(If you chose "I knew but did not use them myself" in the previous question) Why did you not use them?[Multiple answers]

(前の質問で「知っていたが、自分では使っていなかった」を選択した場合)使わなかったのはどうしてですか。[複数回答]

選択肢

- I did not know when to use them appropriately. いつ使ったらいいかわからなかったから
- I felt anxious about using words I had not learned. 習った言葉以外を使うのが不安だったから
- I was not accustomed to using them 慣れていなかったから
- There weren't other options 他に選択肢がなかったから
- I did not want to talk that way. そういう話し方をしたくなかったから
- その他:

質問：Do you think you gained new knowledge about "役割語 role language " and "speaking in your own way" through this lesson? この授業を通して、役割語や「自分らしい話し方」について新しい知識を得ることができたと思いますか。

選択肢

- I gained a lot of new knowledge. 新しい知識をたくさん得ることができた
- I gained some new knowledge. 新しい知識を少し得ることができた
- I already knew most of it, so there was no new knowledge. もう知っていることばかりで、新しい知識はなかった
- I could not understand the content, so I did not acquire new knowledge. 内容が理解できなかったので、新しい知識は得られなかった
- その他:

質問：Do you think you will be able to speak in a manner that suits you in the future? 今後、以前よりも自分に合う話し方で話すことができそうだと思いますか。

選択肢

- I think I can. できると思う
- I think I can to some extent. 少しはできると思う
- I do not think I can very well. あまりできないと思う
- I do not think I can. できないと思う
- I do not know. わからない

質問：When speaking Japanese, do you want to use a speaking style suitable for you? あなたは、日本語を話すとき、自分に合った話し方をしたいと思いますか。

選択肢

- Definitely want to ぜひしたい
- Want to したい
- Either way is fine どちらでもいい
- Don't want to very much あまりしたくない
- Don't want to したくない
- I'm not sure わからない

質問：Was the teaching material easy to understand? 教材はわかりやすかったですか。

選択肢

- Very easy to understand とてもわかりやすかった
- Somewhat easy to understand まあまあわかりやすかった
- Average ふつう
- Not very easy to understand あまりわかりやすくなかった
- Difficult to understand わかりにくかった

質問：How difficult was the teaching material? 教材の難しさはどうでしたか。

選択肢

- Too difficult 難しすぎた
- Somewhat difficult 少し難しかった
- Just right ちょうどよかった
- Somewhat easy 少し簡単だった
- Too easy 簡単すぎた

質問：What was the extent of new vocabulary in the "Main Task" reading material? 「メイン・タスク」の読み物の新しい語彙の量はどうか。

選択肢

- Too much 多すぎた
- Somewhat too much 少し多かった
- Just right ちょうどよかった
- Somewhat too little 少し少なかった
- Too little 少なすぎた

質問：How would you describe the number of examples for "expressing yourself" in the material? 「自分を表す表現」の例の数はどうか。

選択肢

- Too many 多すぎた
- Somewhat too many 少し多かった
- Just right ちょうどよかった
- Somewhat too few 少し少なかった
- Too few 少なすぎた

質問：Did the presence of illustrations in the teaching material help? 教材の中にイラストがあることは役に立ちましたか。

選択肢

- Very helpful とても役に立った
- Helpful 役に立った
- Neutral どちらでもない
- Not very helpful あまり役に立っていなかった
- Not at all helpful まったく役に立っていなかった

質問：How was the post-task activity (presentation activity)? [Multiple answers] ポスト・タスクの活動（発表の活動）はどうか。[複数回答]

選択肢

- Enjoyable 楽しかった
- Helpful 役に立った
- Nerve-wracking 緊張した
- Difficult 難しかった
- Very challenging 大変だった
- Boring つまらなかった
- その他: